

第2回仙台空港等活性化検討会・臨空地域等活性化検討会

日 時：平成24年5月29日（火） 午前10時～11時45分
場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室
出席者：資料名簿のとおり

1 開会（司会：佐々木部副参事）

2 あいさつ（村井知事）

- おはようございます。本日は第2回目の合同検討会に多くの皆様に御参集いただき、誠にありがとうございます。2月8日に第1回目の検討会を開催いたしました。県としての初めての、はじめの一步を踏み出したわけでございます。
- また、これとは別に民間企業等の皆様が自主的に、仙台空港、物流、周辺開発について研究を進められておりました、本日はその内容についても御報告をいただくということになりました。先般の2月8日の際にもお話をいたしましたけれども、私は県外から、海外から、宮城県にお越しいただいた方に宮城県の復興の息吹を感じていただく、そういった象徴的なものとして仙台空港の民営化を是非とも進めたいというように考えております。
- いろんな考え方、いろんな御意見があろうかと思いますが、狙いはたった一つでございます。今、300万人の利用客であります仙台空港、これを400万、500万、できれば600万といったような数字にまで持っていきたいということが一つ。そして仙台空港に離発着いたします飛行機の腹（ベリースペース）に多くの貨物をたくさん積み込むということ。この2つのために、いろんな問題があろうかと思っておりますけれども、この議論をどんどん、どんどん前に進めていきたいというふうに考えております。
- 現在、国の方は（民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する）法律案の審議をされております。この推移にもよりますけれども、国より一歩先んじてこういった議論を進めていくということとは、大変意義のあることだと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。
- 空港の中の滑走路、そして空ビル、駐車場、エアカーゴ、空港アクセス鉄道、こういった五つのもの、あるいは周辺開発、多く言うと6つということになろうかと思っておりますけれども、これを一体的に進めていくということがもちろん理想的ではございますが、おそらく、皆様それぞれ民間企業の皆様も得意分野、やりたい分野というものがあるかと思っておりますから、今後はやれるところから、やりたいところからどんどん前に進んでいっていただきたいというように考えております。結果的には十年、二十年が経った時に全てがうまくまとまって、民間の皆様の力を借りて活性化できたという形に持っていければというように思っておりますので、どうかやりたい人、やる気のある人、力のあるところは積極的に、さらに前に進んでいただきたいと、このように考えています。

- 本日は、国土交通省航空局から佐藤次長、そして平河内航空ネットワーク企画課長にもご参加をいただいております。まずは仙台空港等の民間運営委託の要となります法案の審議状況も含めて、国の空港経営改革の動向についてお話をいただくということになっております。その後、先ほど触れました民間の研究会の皆様からその検討内容について御報告をいただきまして、最後に県が空港とその周辺地域を民間企業の皆様とどう再構築していくのかということの基盤となります、仮称でございますが、「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化構想（案）」について、御報告をしたいと考えております。本日の検討会が有意義な会議となりますよう心より願っております。どうか活発にご議論いただきたいと思います。本日は誠にありがとうございます。

<出席者紹介>

3 報告

① 空港経営改革の動向について（国土交通省）

- 資料1について説明

国土交通省航空局佐藤次長

② 仙台空港等の活性化について（仙台空港活性化研究会）

- 資料2について説明

仙台空港活性化研究会（三菱商事株式会社 浅木部長）

③ 国際物流の拠点化について（国際物流拠点化研究会）

- 資料3について説明

国際物流拠点化研究会（日本通運株式会社 田島部長）

④ 仙台空港の周辺開発について（仙台空港周辺開発研究会）

- 資料4について説明

仙台空港周辺開発研究会（住友商事株式会社 鳥居氏）

⑤（仮称）みやぎ国際ビジネス・観光拠点化構想（案）について（宮城県）

- 資料5について説明

宮城県富県宮城推進室日野室長

4 質疑応答・意見交換

（三井住友銀行 島村部長）

- 私どもとしましても、金融機関として「（仮称）みやぎ国際ビジネス・観光拠点化構想」に関して、企業誘致、観光等についてのお手伝いや、「構想」の各種事業の関わる資金調達等で、期待される役割を果たしていきたいと考えております。

- 「仙台空港の活性化」についてのご発言のなかで、「金融機関の視点」を今後の課題・検討事項に挙げておられました。投資家の立場から今後の検討課題として挙げられている各ポイントは、まさに金融機関が注目する点とも重なる部分が多く、たいへん参考になりました。なお、そのなかで5つの事業を一体化することに関して、慎重に考えなければならないというお話もありました。やはり本構想の目的は活性化でございます。5つの事業を一体化するということももちろん重要なのですが、この構想をさらに進めていく上では、フレキシブルに考えていくということが必要ではないでしょうか。例えば、時期を見て段階的に一体化する、もしくは当面連携等により運営していく等により、一部の事業に関しては、初めから一体化するということにこだわる必要もないのでは、と感じております。いずれにしましても、金融機関としましては、今回の空港の民営化に非常に強い興味を持って見ております。金融機関としてできることは積極的にできることをやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(日本政策投資銀行 深井室長)

- 金融機関としては、ある程度事業のフレームワークができてこないと本格的な議論というのはなかなか難しいというのが本音でございますが、地域振興のお手伝いをしてきた機関として一言コメントさせていただきますけれども、今日御説明いただいた報告書、それぞれ非常にいろいろな情報、詳細な分析に基づいていて、報告案としては全く違和感がないというところでございます。まさに仙台空港や周辺地域の活性化を図るためには、空港自身の利便性向上を図ることがまず重要な観点でございますし、加えてより広域な観点から仙台空港のあり方を検討すると、そういったことが重要だと思っております。まず1点目としましては、報告書でも御指摘ございましたけれども、首都圏直下型地震、あるいは東南海連動型地震、こういったリスクも高まってきているところがございますので、東北の活性化という視点もありますけれども、日本全体の安全安心を高めるという観点からも、仙台空港の機能強化というのは一層重要性を増しているのだろうというように思います。
- 仙台、あるいは東北の沿岸域というのは、大震災で多くの被害を出されたわけでございますけれど、これは当然のことながらハンデ地域ということではなくて、尊い犠牲と災害に遭われた皆様に報いるためにも、むしろこういった経験を生かして、防災力、あるいは防災だけでは不十分だと思っております。むしろ災害が起こった後の災害対応力、こういったものをより高めていくという地域である、ということのアピールしていくことが必要だというように認識してございます。
- 手前どもの銀行で、数年前から防災格付融資という制度を民間企業の皆様にご提供しておりますけれども、企業の皆様の防災への取組を評点化いたしまして、審査に生かしていくという手法でございます。正直申し上げまして、震災前は年間に数件程度の実績でございましたけれども、東日本大震災を受けまして、防災という観点から災害対応力という観点を重視したようなシステムに変更しております。その結果でございますが、震災以降昨年一年間で数十件の御利用をいただいているところです。企業の皆様、やはり防災、あるいは災害対応力というところに一層関心が高まって

おりますので、地域としてこういった災害対応力の高い地域であるという観点は非常に重要だと思っております。

○まさに仙台空港の安全安心力を高めるためには、東北域内での機能、あるいは役割分担、こういった視点も踏まえた検討が必要ではないかと考えています。

○確認したいのですが、宮城県庁では3月に仙台空港有効活用について、調査委託をしていると思うのですが、その報告書の公表の予定はどうなっているのでしょうか。

(富県宮城室日野室長)

○ご質問の通り、復興調整費を活用しまして現状調査を行っております。これについては、今年度も国の先導的官民連携支援事業等に応募させていただいており、採択もされたところです。これも合わせて次回以降の検討会で御報告させていただきたいと考えています。

(東北経済連合会 松澤副会長)

○国際物流拠点化等の話について一言意見を述べさせていただきたいと思います。もともと東北地方にとって域内の産品、物産品、これを域内の空港、あるいは港から積み出すということは大変大きな課題となっております。そういう意味からしましても、この仙台空港の活性化の検討と合わせて、国際物流についても検討を深めることになり、ここまで進められたことは大変いいことだと受け止めております。

○検討していく上で大切な視点、先ほどの説明でもずいぶん触れられておりましたが、単に空港の施設といったハード面だけではなくて、空港を利用する荷主企業、この方々がどういうことを求めているか、そのニーズを踏まえて行っていくことが大変大事、重要なのだろうと思っています。例えば高いセキュリティが求められている貨物へどう対応するか、海上貨物と空港貨物の両面への対応もあるでしょう。いずれ荷主企業にとって良い物流を選択できるソフト面、サービス面での整備が不可欠だろうと思っています。

○また、もう一つ、東北の特産品であります果物でございますが、この輸出には空港運輸が適しており、それにふさわしい物流機能も整備していくことが必要だろうと思っています。こうしたことをしっかりと踏まえまして、まずは東北域内の荷主企業が活用しようと思うような物流拠点を強化しながら貨物量、商流の活発化が前提となるわけですが、貨物量を確保して、空港貨物ネットワークの拡充そして強化ということをしていくことが大事だろうと思っています。いずれにしても、こういった事業の実現には、国、県の強いリーダーシップが不可欠だろうと思いますので、しっかりとした対応を引き続きお願いしたいと思っています。

(野村総合研究所 名取部長)

○本日の御報告の中で、空港の経営改革に加えて、周辺開発、そのあたりも含めての全体感が大変

よくわかったと思います。まずは空港の経営改革が大変重要ですが、それをきっかけとして海外誘客、周辺地域プロジェクト、それとモノの流れという、このスパイラル型の発展というのは大変重要なことだと思います。おそらく、今は仙台空港、仙台空港の周辺ということですが、この先に見えるものとして、アジア全体にいかにつながるか、これを通じて復興の流れというものに、ひとつ道筋が見えるように思いました。こういう観点で見た場合に、一つ気になる点は、やはりこれからどうプロジェクトを具体化するかという点だと思います。今日もいろいろ関係者が一体になって取り組むということが強調されたわけですが、今いろいろ現場で見ていると、お互いに見合うということが実は多くて、これを見合うところから、いかに協調して形にしていくかと、このあたりが大変重要なのではないかと思います。復興に向けてのいろいろなツールは用意されていると思います。一つはやはり公が中心となっていくような、交付金のようなものもございまして、今回の特区で、これから重要になると思いますのは、民間提案のスキームです。復興特区、今はどちらかというプリセット型で、全ての規制改革の枠組を、決められた形でどんどん指定して、活用するということが中心だと思いますが、民間提案のスキームが用意されておりますので、このあたりはむしろこれから活用するといいいのかなと考えます。そのためには、こういう母体になるような場が用意されましたので、これから多分スパイラル型の発展にあたっては、個々のプロジェクトを具体化していくことが重要になると思います。自治体の方々がなかなか思いもつかないような発想があると思いますが、こういう民間提案のスキームを活用していくといいいのではないかと、そのような思いを持ちました。

(野村證券 園山ヘッド)

- 御検討の成果を見せていただき、ありがとうございます。議論の中で、コンセッション方式で空港を活性化しようと、周辺の5事業一体化ということも含めてということですが、その中でキーワードとして出ております、民間資金の活用というところについて一言、私どもは証券会社でございますので、そういった立場からコメントさせていただければと思っています。民間資金と言いますと、多分、融資、デッドというものと、エクイティ、投資というもの2種類あるかと思いますが、諸外国の空港の民営化のプロセスにおきましても、投資の対象として民間の資金が流れ込む、(ファンドの)要素というのは重要な要素ではないかと私どもは考えておまして、そういった観点でこういった研究に参加させていただいています。これからの検討の課題というところで、投資の対象として、空港というインフラ資産がなりうるのかといったところが、これからの検討課題ということで、事業性、事業そのものの中身がどうなっているのかといったところが見えてこないとなかなか判断には至らないのではないのでしょうか。私どもの会社は、投資家に対して、インフラの資産というものを投資の対象として紹介するというのが機能だと思っております。今後の検討課題の中で、優良なインフラ資産、投資の対象であるというところを伝えられるような視点で進めていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(仙台空港ビル 伊藤社長)

- 常日頃、会社を経営している者といたしまして、やはり今のように空港の上下が分離して各個別の企業体でもって経営方針を立てて、戦略を作ってやっていくというのは、かなり限界が来ています。

従いまして、大きな震災で壊滅的な打撃を受けた今だからこそ、この5事業をひとくくりにして、一体運営感を持たせ、その結果として、空港全体のコストの低減、サービスの向上に加えて、クリエイティブな付加価値を5事業全体でどのように出していくのかということ三位一体でこれまで以上に加速させて具体的なステージに入るべきではないかというふうに思います。そのためとして、今日は研究会からの報告で一定の成果が得られたと思います。具体的な提言もいただきましたので、これを踏まえて三位一体で今後どのような形で、経営改革のステップに入っていくのか、例えばこの検討会をこのまま続けていくのかも含めて、どのような形で加速させていったらよいか、というところも御意見があればいただきたい。

(村井知事)

- 当然、これですべて終わりということではありませんので、引き続きこの検討会のスキームを維持しつつ、今後は各論に入ってまいります。各論に入ってまいりましたならば、それぞれの動きがまた出てきますが、このスキームを壊してしまひまして、私どもと個別の企業同士の話し合いということになりますと、公という立場から、難しい面も出てまいりますので、基本的にはこのスキームは残して、いろいろ協議はしていきたいというふうに思っております。

(仙台空港ビル 伊藤社長)

- ぜひとも全国の空港のモデルケースになるように、今まで以上に一步でも二歩でも、前に、具体的に進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(国土交通省 坂本空港振興調整官)

- 明るい話をちょっとしたいと思います。どうやって航空需要を戻していくのか。私も外国人観光客を増やしていく仕事を運輸局として行っており、各県、宮城県さんにも大変お世話になっていますが、外国人が戻ってきているなということを感じます。おかげさまで、例えば台湾、中国、観光の旅行代理店に東北域内を御案内する仕事をやってきました。実際に、東北にこんなに魅力的なところがあるのかということで、そういった旅行代理店、エージェントの方々も感動して帰っていつてくれているわけです。例えばアンパンマンミュージアムが仙台にありますという話をしたところ、商談会を途中で抜けても行きたいという話があったくらいでしたので、実際にアンパンミュージアムに行ってもらい、いろんなグッズを買って帰っていただきました。帰ったら、今度はちゃんとアンパンマンの絵が入った旅行商品、台湾のエヴァー航空を使って仙台空港に入ってくる、木曜日出発の日曜日帰りというプランを作ってくださいました旅行会社もあります。
- 私も台湾の旅行代理店の方と約束をしたので、なかなか飛行機の席が取れない中で、何とか7月26日出発で仙台空港から台湾に行ってきます。今、エヴァー航空は週二便、木曜日出発と日曜日出発しかないので三泊四日で旅行の日程を組むしかないので、これが週三便になれば、さらにフレキシブルに旅行日程も組めるし、仙台空港から来てくれる人も増える、こちらから行く人も増えるということになると思います。エヴァー航空に私からも働きかけますが、ぜひ二便を三便にしていきたい。もともと震災前から二便だったのですが、これが三便に増えれば、かなり台湾からのお

客さんも増えていくと思います。先ほど知事も400万、500万とおっしゃいましたが、やはり利用者を増やすためには、キャパシティ、座席の供給がないといけないので、これを増やす努力をしていくことが大事です。

- 国内の観光客、特に西の方の観光客についてです。県庁の1階にも「伊達な旅 春キャンペーン」とあわせて観光博ののぼりも置いてくださってありがとうございます。まさに宮城県さんと一緒に東北観光博を来年の3月末まで開催していますが、東北に来てもらおうという努力をしている中で、各企業の皆様にも御協力を頂けないかと、ニッポンレンタカーさんに私も何度か通いました。その結果、今回の東北観光博に合わせて、6月中旬くらいから、仙台駅の駅近くの営業所を出発して、岩手県の一関や盛岡の営業所で返す場合には、乗り捨て手数料を無料にするというキャンペーンをやってくださることが決まりました。現在、ウェブページをニッポンレンタカーのホームページの中で立ち上げる準備をしているところです。それを観光庁の担当課長に報告したところ、非常に喜んで、それは飛行機で来てもらう場合に活用できないかという話になりました。仙台空港からアクセス鉄道を使って仙台駅まで行き、観光をしてもらった後で花巻空港から帰るなどすることで、福岡や大阪といったところから来てもらう、そういう需要の伸ばし方もあるのではないかと。そういうことで、日本航空さんや全日空さんにパック旅行を作れるかということも含めて御相談をしているところです。

その他

<事務局から今後のスケジュール予定について説明>

終わりに

(村井知事)

- 長時間にわたり、大変ありがとうございました。よくここまで短時間で、いろいろ検討し、まとめていただいたと感謝を申し上げます。ここまではずっと総論賛成で来たのですが、今後は各論に入っていくと思います。次第次第にいろいろ難しい、高いハードルがどんどん出てくるかと思いますが、力を合わせて一つ一つクリアしていこうと思います。
- 先ほど、できるだけフレキシブルに対応すべきだというお声がありました。私は、職員には、民間の皆さんが仕事をやりやすいように、そこを中心に議論をしていこうというふうに話をしております。当然、役所ですので、個人の企業の利益のために仕事をすることはできません。したがって、あくまでも目的は先ほど言いましたように、旅客数を300万から500万、600万に持っていく、また飛行機の腹の中にたくさんものを詰め込む、同時に仙台空港を利用なさらない方にも、仙台空港に遊びに来ていただける、立ち寄っていただける、そういった周辺開発、そういったことを目指しながらやっていこうというふうに思っています。その主役はあくまでも、民の立場でおられる皆様だというふうに思っておりますので、皆様がぜひとも積極的に投資をしやすいと思っただけのような環境を作るように、そこに力を全力投球で注いでまいりたいと思っております。いずれにいたしましても、皆様方のお知恵、力を借りなければ何もできませんので、どうか引き続

きよろしく願いを申しあげたい。非常に有意義な一日だったと感謝しております。ありがとうございました。

<閉会>